

令和 8 年度

「運営に関する計画」

(目標設定)

大阪市立巽中学校

令和 8 年 4 月

大阪市立巽中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の目標 (現状と課題)

学校の現状と方針 (R8)

本校の教育目標である「人間尊重の精神を基盤とし、一人一人の生徒が心豊かに力強く生き抜く人材となる基盤をはぐむための教育を推進する」を目指して取り組んでいる。学校全体としては、生徒が落ち着いて学習に取り組める環境となっているが、基本的な生活習慣の欠如の改善や支援を含め、以下の①～⑫の項目を中心として取り組みを進めていく。

- ①生徒の心情や背景も加味し、個に応じた（保護者や各家庭のニーズに合った）対応（合理的な配慮も含む）を広げていく。また、スクールカウンセリング（SC）の継続した活用と関係諸機関や団体を随時利用しながら個々の問題解決（支援）を行っていく。生徒対応対策（いじめ対応含）
- ②不登校生徒の背景や不安要素を分析し、増え続ける外国籍の生徒（渡日生）も含め、多様なニーズへ柔軟に対応できる学校を造っていく。不登校対策
- ③スマホや SNS に対する危険性や使用方法等のモラル学習を積極的に進めていく。
スマホ SNS 情報モラル対策
- ④生徒や学年に応じた人権教育やキャリア教育の継続。ウリ文化部や国際多文化部の対応を継続・充実させていく。人権教育、キャリア教育、多文化共生教育
- ⑤防災訓練など防災の取り組みは地域とも協同し、形を変えながらも継続させていく。また、生命の大切さと自分の命は自分で守る行動を実践的に学ぶ機会をもつ。防災教育（地域連携）
- ⑥各種調査における結果を対府（市）の平均値に近づける。また、総合的な英語力を伸ばすため、英語力の向上にも力を入れていく。学力向上、英語力向上
- ⑦「学校の授業はわかりやすい」の肯定的な回答は高いが、学校支援事業や相互授業参観、校内外の研修等を有効に活用し、教員の授業力向上を目指す。また、総合や体験学習等（総合的読解力の取組みも含む）を利用し、自分の考えを表現できる力（主体的に言動や発信できる力）、自らの将来に必要な力（ICT 活用能力も含む）をつけていく。授業力向上
- ⑧運動能力調査の結果より、男女ともに全国平均値を上回る高い結果となっている。継続して授業（補強運動等）を通して高めていきたい。また、取り組みや行事、部活動を通し、体を動かすこと、スポーツ（運動）を楽しむ生徒をさらに増やしていく。運動の楽しさ、体力向上対策
- ⑨学習者用端末の効果的・効率的な活用や継続的な使用を促す。また、教職員の使用頻度（活用領域）も増やし、活用スキルを ICT 支援員の活用により向上させる。学習者用端末の活用対策
- ⑩多様な用途に対応できる図書室をさらに充実させることで図書室の利用者を増やす。図書室の活用対策
- ⑪各種サポーターや部活動指導員等の人材を効果的に活用し、業務の分担化を進め、各個人の時間外勤務時間の減少を行う。働き方改革の対策
- ⑫地域共同活動（学校協議会や PTA）を充実させ、学校運営の活性化をさらに進める。また、学校ホームページやミマモルメを効果的に活用し、案内や情報を定期的に提供し、開かれた学校をさらに進めていく。
地域連携

2 大阪市教育振興基本計画【令和8年度～11年度】の目標 ※今年度改定

【安全・安心な教育の推進】

○令和11年度の年度末校内調査における「学校での生活が楽しい」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を87%以上にする。

○令和11年度の年度末校内調査における「自分には良いところがあると思う」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和11年度の全国学力学習状況調査における平均正答率の対全国比を全国平均以上とする。

○令和11年度の全国学力学習状況調査（国語・数学）における学力に課題の見られる生徒の割合の全国との差を0%以下とする。

○令和11年度の全国体力、運動能力・運動習慣等調査における体力合計点の対全国比と全国平均以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和11年年度末の調査における「学習者用端末を活用して、単に調べるだけでなく、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

○令和11年度末の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を30時間以下とする。

○令和11年度末の教員の管理職選考受験者に占める女性教員の割合を30%以上とする。

○令和11年度末の調査における「生涯学習センターの講座等をきっかけに、様々な学習や活動につなげたいと思うか」に対して、肯定的に回答する参加者の割合を90%以上とする。

○令和11年度末の調査における「コミュニティ・スクールや地域学校協同活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。」に対して肯定的に回答する割合を90%以上とする。

3 校内の年度目標

安全・安心な教育の推進

<安全・安心な教育環境の実現>

① 年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を87%以上にする。（R7 84.2%）

② 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。（R7 7.5%）

③ 年度末の校内調査における「保護者との間にスマートフォン等（インターネットと通じたゲーム・動画・SNS等の利用）を利用する時のルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

<豊かな心の育成>

④ 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を80%以上にする。（R7 78.6%）

⑤ 年度末の校内調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切に、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。

未来を切り拓く学力・体力の向上

<誰一人取り残さない学力の向上>

- ① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。(R7 43.4%)
- ②1 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
※R7→2年 (R7 対府比 国語0.98 数学0.96)、1年 (R7 対府比 国語0.91 数学0.95)
- ②2 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 52%以上にする。(R7 50.7%)

<健やかな体の育成>

- ③1 年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合 62%以上にする。(R7 58.6%)
- ③2 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点の全国比を男女とも上回る。
【R7 男 42.03(42.20) 女 48.04(47.58)】(全国平均値)

学びを支える教育環境の充実

<教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進>

- ①1 年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友達と共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 50%以上にする。
- ①2 年度目標アンケートにおける「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。

<人材の確保・育成としなやかな組織づくり>

- ②1 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 50%以上にする。また、基準 2 を満たす教職員の割合を 70%以上にする。(基準 1 R7 45.1%) (基準 2 R7 64.5%)
- ②2 ゆとりの日を定期的に設定し、定時退勤の推奨も行う。また、学校閉庁日を年 12 日以上設定し、時間外勤務の減少を目指す。(R7 長時間勤務 月/約 35 時間・閉庁日 12 日)

<生涯学習の支援>

- ③ 年度目標アンケートにおける「学校図書館や学級文庫、読書コーナー等、学校内にあなたの読みたい本がありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- ④ 放課後の学習支援 (学校元気アップ事業も含む)、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動を通して、生徒の居場所づくり等充実させる。(学習会 R7 計 168 回開催、のべ利用人数 811 人利用)

4 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立巽中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】	達成状況
<p><安全・安心な教育環境の実現></p> <p>① 年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を87%以上にする。(R7 84.2%)</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R7 21人 7.5%)</p> <p>③ 年度末の校内調査における「保護者との間にスマートフォン等(インターネットと通じたゲーム・動画・SNS等の利用)を利用する時のルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p><豊かな心の育成></p> <p>④ 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を80%以上にする。(R7 78.6%)</p> <p>⑤ 年度末の校内調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切に、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。</p>		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 ①生徒対応(いじめ対応含)</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめを許さない仲間づくりを進め、互いを認め合い、支えあう集団を育成する。(生活指導部) いじめは絶対に許されない行為だとはっきりとした態度で生徒たちへ継続的に伝え、安心安全な学年の教育環境を作る。生徒同士のトラブルや相談は親身に対応し、家庭と迅速に情報共有し解決に向けて協力する。(1年) いじめを許さない仲間づくりを進め、他者に対して尊重する心を育成する。(2年) 相談しやすい環境づくりと一人一人が正しい判断をできるかつ実行できる学年集団を育成する。また、委員会活動、生徒会活動の活性化を図り、行事を通して自主性を育て、規律ある学校生活の充実を図る。(3年) <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートで「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」で肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。(生活指導部) 毎日の心の天気の利用、いじめアンケートや教育相談の定期的な実施で、早期発見や初期対応をスムーズに行う。いじめ事案に対しては丁寧かつ的確な対応を行い、100%解消に取り組む。(生活指導部) 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する1年生の生徒の割合を85%以上にする。(1年) 毎日の心の天気や教育相談の実施で、生徒の悩み等、早期発見できるように努め 	

<p>る。(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートや教育相談の定期的な実施、日常的に生徒に関わる機会を増やすことで、いじめ事案に対する対応、解消を100%とする。(3年) <p>【進捗状況(10月)】</p> <p>【結果(2月)】</p>	
<p>取組内容 ②不登校対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実情に合わせた登校支援(ココカラルームなどを利用した別室登校)を行っていく。 ・家庭や各関係機関との連携を密にし、生活習慣の乱れによる生徒の不登校数を減少させる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の実態を把握し、家庭連絡や家庭訪問を継続して行うことで、不登校生徒の在籍比率を5%以下に減少させる。 <p>【進捗状況(10月)】</p> <p>【結果(2月)】</p>	
<p>取組内容 ③スマホ・SNS、情報モラル対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホやネット安全教室を開催し、スマホに対する規範意識を高める。また、関係機関等と連携を図り、トラブルの未然防止や早期発見に努める。(生活指導部) <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ/ネット安全教室を実施する。 ・スマホやSNSに対する危険性や使用方法等の理解を深めさせ、校内アンケート「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して肯定的な回答の割合を95%以上にする。(生活指導部) <p>【進捗状況(10月)】</p> <p>【結果(2月)】</p>	
<p>取組内容 ④人権教育・キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会や諸団体と連携し、外部講師等を招いて人権教育を深めた実践的な教育を組織的に展開する。また、お互いの人権を尊重しあえる行動力を持つことのできる生徒を育成する。(人権教育委員会) ・多種多様な背景をもつ人がいることを理解させ、互いに尊重し思いやりを持つことの大切さを伝える。(1年) ・11月の職業体験の実施を通して、生徒が将来への見通しや職業観が十分に育成されるように努める。(2年) ・進路に向けた取り組みを、高校選択だけでなく、その先も見据えたものとする。また、互いの違いを尊重しあい、全員が自信をもった(前向きな行動)行動がとれる教育環境を形成する。(3年) <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケート「励まし合ったり、注意したりするよい関係の友達がいる」の最も肯定的回答を65%以上にさせる。(人権教育委員会) ・学校アンケートにおいて「自分にはよい所がある」の肯定的回答を80%以上にさ 	

せる。(1年) ・生徒一人一人の社会的/職業的自立に向けた基盤形成を図る。職場体験事後アンケートでの肯定的回答を80%以上にする。(2年) ・校内アンケートにおいて「自分にはよい所がある」の肯定的回答を80%以上にさせる。また、学年のアンケートで「大人になることが楽しみである」の肯定的回答を70%以上にさせる。(3年)	
【進捗状況 (10月)】	
【結果 (2月)】	
取組内容 ⑤多文化共生教育 ・多文化共生の視点を持たせ、国際的な平和と日常の人権を守るための教育活動を進める。また、民族学級や国際クラブに関する取り組みの重要性を理解させ、教育活動に役立てる。	
指標 ・校内アンケートにおいて「自分にはよいところがある」の肯定的回答を80%以上にさせる。 ・民族学級、国際クラブの活動を充実させ、民族講師からの講話を各学年で実施する。	
【進捗状況 (10月)】	
【結果 (2月)】	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立巽中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	達成状況
<p><誰一人取り残さない学力の向上></p> <p>① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。(R7 43.4%)</p> <p>②1 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ※R7→2年 (R7 対府比 国語 0.98 数学 0.96)、1年 (R7 対府比 国語 0.91 数学 0.95)</p> <p>②2 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を52%以上にする。(R7 50.7%)</p> <p><健やかな体の育成></p> <p>③1 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合62%以上にする。(R7 58.6%)</p> <p>③2 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点の全国比を男女とも上回る。【R7 男 42.03(42.20) 女 48.04(47.58)】(全国平均値)</p>		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 ①授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ティーチングエンパワー事業(経験の浅い教員を中心として)を活用して授業力向上を目指す。 ・相互授業参観を効果的に活用し、個人の授業改善やアップデートを進める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケート「学校の授業は分かりやすい」の最も肯定的回答を45%以上にさせる。 ・相互授業参観期間において、各自年間2回以上、他教員の参観を行う。(年3回の研究授業は除く)また、各自において校外の研修等に参加する。 <p>【進捗状況(10月)】</p> <p>【結果(2月)】</p>	
<p>取組内容 ②1,2 学力向上(英語力向上含)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を効果的に活用し、個別学習や協同的な学びを推進する。(教務部・英語科) ・各学年で習熟度別授業を計画的に実施。また、定期テストの直前、長期休みの際に個別習熟度に応じた補習を行う。(英語科) <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内保護者アンケート「子どもは、授業の内容を理解している。」の肯定的回答を75%以 	

<p>上にさせる。(教務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末に独自アンケートを実施し、「英語の授業内におけるタブレット使用頻度に関する質問」で肯定的な回答を80%以上にする。(英語科) ・9月に実施予定の英語検定において3級以上の合格者(保有者)を25%以上にする。(英語科) 	
【進捗状況(10月)】	
【結果(2月)】	
<p>取組内容 ③1,2 運動の楽しさ・体力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業、各行事(体育大会や水泳大会等)の練習を通して運動の楽しさや練習方法を効率的に伝える。 ・水泳や陸上(長距離走)の授業で、重点的に全身持久力を高める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力運動能力調査において、各8種目において全国平均値を上回る。(R6は7種目で上回った。R7は男女ともに4種目上回った。) ・生徒アンケート「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きである」の肯定的な回答を昨年度より向上させる。(R7は80.7%) 	
【進捗状況(10月)】	
【結果(2月)】	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立巽中学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】	達成 状況
<p><教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進></p> <p>①1 年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友達と共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 50%以上にする。</p> <p>①2 年度目標アンケートにおける「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。</p> <p><人材の確保・育成としなやかな組織づくり></p> <p>②1 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 50%以上にする。また、基準 2 を満たす教職員の割合を 70%以上にする。(基準 1 R7 45.1%) (基準 2 R7 64.5%)</p> <p>②2 ゆとりの日を定期的に設定し、定時退勤の推奨も行う。また、学校閉庁日を年 12 日以上設定し、時間外勤務の減少を目指す。(R7 長時間勤務 月/約 35 時間・閉庁日 12 日)</p> <p><生涯学習の支援></p> <p>③ 年度目標アンケートにおける「学校図書館や学級文庫、読書コーナー等、学校内にあなたの読みたい本がありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。</p> <p>④ 放課後の学習支援 (学校元気アップ事業も含む)、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動を通して、生徒の居場所づくり等充実させる。(学習会 R7 計 168 回開催、のべ利用人数 811 人利用)</p>		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容 ①1, 2 学習者用端末の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の管理、運用を継続的に行い、学習者用端末を有効に活用した授業に取り組む。また、オンライン学習の環境整備を行い、オンラインによる授業実践を実施する。(ICT 担当) ・タブレット端末やデジタル教材など、授業で学習ツールを活用した授業づくりに積極的に取り組む。(1 年) ・各教科における ICT 活用場面を日常的に使用するよう推進する。(2 年) ・学習者用端末を効果的に利用し、適切な機会適切に活用できる能力を育成する。(3 年) 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修で学習用端末を活用した授業を年 1 回以上実施する。 ・タブレット端末の使用率の割合を増やす。(授業日は 100%使用かつ活用率 80%を 	

<p>50%以上の日で実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの保障」のため、双方向オンライン授業（ハイブリット）授業を（不登校生への対応も含め）実施する。また、学習活動で活かせるデジタル教材を効率よく活用する。（1年） ・端末を活用した継続的な授業実施率を30%以上にする。（2年） ・学年のアンケートで「タブレットを効果的に活用できている」の肯定的回答を70%以上にさせる。（3年） 	
<p>【進捗状況（10月）】</p>	
<p>【結果（2月）】</p>	
<p>取組内容 ②1,2 働き方改革（時間外勤務等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計年度職員等の増員と効果的な活用で業務の分担やスリム化をさらに進める。 ・職場環境の整備や改善を図り、教職員の働きがいを高める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務（月平均35時間以下）の減少を引き続き進めていく。 ・教職員のストレスチェックにおいて産業医による面談者を今年度も出さない。 	
<p>【進捗状況（10月）】</p>	
<p>【結果（2月）】</p>	
<p>取組内容 ③図書室の活用（読書活動含）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪府子ども読書活動推進計画」に基づき、生徒が読書を楽しむための取り組み等を通して読書に親しむ時間をさらに向上させる。 ・図書室利用状況は授業や学習での利用が約半数であるため、学習活動における図書室の利活用に対応する蔵書構成の充実を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査「本をよく読んでいる」の肯定的な回答を40%以上にする。月平均の学校図書館来館者数を300人以上、貸出冊数を30冊以上にする。 ・調べ学習や教科書に出てくる図書、特別支援等で使用する本の蔵書を見直し充実させていく。 	
<p>【進捗状況（10月）】</p>	
<p>【結果（2月）】</p>	
<p>取組内容 ④地域連携・放課後学習の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の運営において保護者や地域のひととの協働による活動（学校元気アップ事業も含む）を実施する。 ・放課後の学習支援（学校元気アップ事業も含む）、や生徒の居場所づくり（環境整備）等地域やPTAと連携し、充実させる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習での利用生徒を昨年より増やす。（R7 延べ利用人数 811人） ・校内保護者アンケート「学校は、保護者・地域の願いや期待に応えようとしている」の肯定的回答を90%以上にする。 	
<p>【進捗状況（10月）】</p>	
<p>【結果（2月）】</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	

次年度への改善点